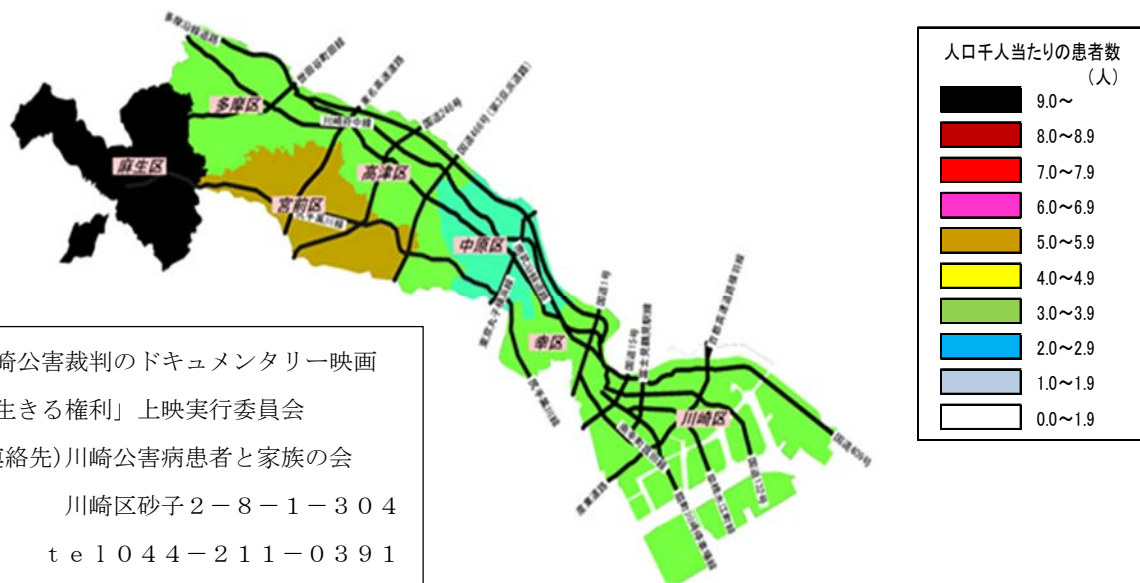


なぜ、今、川崎のぜん息患者が増えているの！

本当に「大気汚染公害は終わった」？

川崎市の小児ぜん息患者（20歳未満・医療費無料）は、昨年12月現在7,533人。成人ぜん息患者（20歳以上・1割負担）は、6,431人です。公害認定患者は1374人です。下の図は、その合計数を口千人当りで表した、川崎市の地図と幹線道路との関係を示したものです。川崎市は「公害は終わった」として、この制度を改悪しようとしています。大気汚染よりもアレルギー体質やダニ、カビ、住宅の密閉性が主因だと強調しますが、本当にそうでしょうか。この疑問を市民と共に考え、解明するために、川崎公害裁判のドキュメンタリー映画「生きる権利」の上映会を開催します。公害をなくすために、多数の市民のご参加をお待ちしています。

人口千人あたりの区別成人ぜん息患者数（平成27年3月末現在）



川崎公害裁判のドキュメンタリー映画

「生きる権利」上映実行委員会

(連絡先)川崎公害病患者と家族の会

川崎区砂子2-8-1-304

te1044-211-0391

川崎公害裁判のドキュメンタリー映画

「生きる権利」の上映会

<日時及び会場>

① 4月16日(土) 午後1時30分~

中原区 総合自治会館第1会議室

② 5月7日(土) 午後1時30分~

川崎区 教育文化会館第4・5会議室

③ 5月27日(金) 午後1時30分~

高津区 高津市民館第5会議室

④ 6月13日(月) 午後1時30分~

麻生区 麻生市民会館視聴覚室

<資料代 300円>